2022(R4)年度 学校教育自己診断アンケート総括

2023_0125 運営委・0126 職会　佐藤 弘康

Ⅰ　今年のポイント

教職員・生徒・保護者質問項目に府教委指示の項目追加。

※「この学校では１人１台端末が効果的に活用されている」

Ⅱ　自己診断アンケートを巡る情勢 ㊟

①条例による義務化。

②結果から課題の克服策を打ち、結果を再びアンケートで問うことの義務化。

③学校ホームページで公開することの義務化。

Ⅲ　回収数　web 実施３年目であるが保護者の提出率は昨年より減少。提出数 30%前後は 2019 年以来。

回収率が 50%を割った昨年よりさらに減少。学校と保護者間のプラットホームを整備する必要がある。

現段階の改善策として、クラスルームの利活用を進めて提出率向上をめざしていく。

		2022 年度		2021 年度		2020 年度		2019 年度		2018 年度	
生徒	提出数	649		745		832		805		771	
	在籍数	702		772		808		817		833	
	提出率	92.4%	-4.1	96.5%	-2.0	102.9%	*	98.5%	+5.9	92.6%	+1.2
保護者	提出数	215		382		575		245		320	
	在籍数	702		772		808		817		833	
	提出率	30.6%	-18.8	49.4%	-21.7	71.1%	+41.2	29.9%	-8.1	38.0%	-3
教	提出数	55		42		52		58		53	

Ⅳ　全体の特徴　生徒・保護者の評価は昨年とほぼ同じ。教員の自己評価はさらに改善。

大阪府の基準でプラス評価の比率を表にすると以下の通り。　府教委基準の評価 P=(A+B)*100/(A+B+C+D) 単位%

府教委 P	2022 年度		2021 年度		2020 年度		2019 年度		2018 年度	
	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比
生徒	77.7	-0.4	78.1	+4.3	73.8	+3.2	70.6	+2.4	68.2	-3.6
保護者	80.8	+0.1	80.7	+3.9	76.8	-2.2	79.0	+1.2	77.8	-2.8
教員	77.2	+4.1	73.1	+8.9	64.2	+15.6	48.6	-7.1	55.7	-5.2

僅かではあるが生徒の肯定的評価が減少するのは４年ぶり。教員のプラス評価は３年連続増加。

保護者のプラス評価が高い項目

21 学校では子どもに関する個人情報が守られている。97P 27 学校は社会や地域貢献活動に力を入れている。93P 30 学校は１人１台端末を効果的に活用してい。90P 22 学校は教育情報について提供の努力をしている。89P 26 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている。89P 7 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。88P 6 先生は子どもの評価を適切・公平に行ってくれる。87P　など

Ⅴ　個別的内容

⑴「わかる授業」をめざした改善は次の段階に移行する必要があるか。

授業におけるＩＣＴ機器の活用は一定の水準に達したとみる(41.この学校では１人１台端末が効果的に活用されている。88P)が、授業に関係する質問項目のプラス評価が減少した。ＩＣＴ機器を業務改善にも利活用して教員が生徒の学習面や進路・心理面をサポートする時間を増加させる必要があるのではないか。

(生徒)プラス評価の割合(%)	2022	2021	2020
32.ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。	83	88	80
33.他の先生が授業を見学に来ることがある。	76	83	77
7.教え方に工夫をしている先生が多い。	81	84	75
4.授業はわかりやすい。	73	76	69
8.授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	70	73	70
6.授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	70	66	62
40.授業や体験活動を通して、自信がついた *2020 年度からの追加項目	62	64	57
39.家庭学習が習慣となった	49	42	46
5.授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。	41	27	31
(保護者)　4.子どもは授業がわかりやすいと言っている。	57	61	53

⑵「全ての生徒が安心して学べる学校環境づくり」の成果はやや後退。

(生徒)プラス評価の割合(%)	2022	2021	2020
34.先生は生徒のプライバシーや他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。	85	86	81
12.先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれると思う。	79	83	76
3.先生は生徒の意見を聞いてくれる。	76	83	75
1.学校に行くのが楽しい。	76	80	78
11.悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	76	80	70
14.学校生活についての先生の指導には納得できる。	70	70	61
13.担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。	64	62	59
(保護者)　1.子どもは学校に行くのを楽しみにしている。	76	74	78

生徒との信頼感を示す項目の肯定的評価は減少。一定の水準を維持している間に、生徒の声を聞き、改善に生かす段階ではないか。⑴と同様に学校は生徒（保護者）との心理的なつながりの強化をめざしていく。

Ⅵ　今後の課題

⑴「E.判断できない。わからない」が多い質問項目は３年間のデータがそろったのちに総括に加える。

⑵ 学校の教育活動のＩＣＴ化をさらにすすめて、学校全体の改善をはかる

授業改善はもとより、業務改善にもＩＣＴ機器等を積極活用して教員が生徒と関わる時間を増加させていく必要がある。

⑶「生徒指導提要」の 12 年ぶり改訂。チーム学校・学年や分掌横断体制・教育相談と一体となった支援・家庭や関係機関との連携協働等がさらに求められている。社会の変化に対応できる指導体制を構築していく。